

sshfs Mount 説明書



Ver. 2.02.x	2026年02月09日 (月)
Ver. 2.02.7	2026年02月23日 (月)
Ver. 2.02.8	2026年02月24日 (火)
Ver. 2.03.0	2026年03月22日 (日)
Ver. 2.03.1	2026年04月07日 (火)
Ver. 2.03.2	2026年04月12日 (日)
Ver. 2.04.0	2026年08月15日 (土)
Ver. 2.05.0	2026年09月19日 (土)

動作環境について

macOS

作者の環境は以下の環境で開発と動作確認を行っています。

M1 Mac Apple Silicon M1 Memory:32GB macOS 27.0

IntelMac Intel Core i7 Memory:32GB macOS 15.8

% sshfs -V

SSHFS version 3.7.6

FUSE library version 3.18.2

using FUSE kernel interface version 7.45

macFUSE mount version 5.3.2

Linux

動作確認環境

Intel Core i7 Memory:8GB Zorin OS 18 core (ubuntu系)

カーネル 6.17.0-19-generic

ウィンドウマネージャ x11

xojo社の公開するxojoアプリの動作環境

Current LTS versions of Ubuntu 20.04 or later

Linux Mint 20 or later,

CentOS 7.0 or later,

Current LTS versions of Ubuntu,

Debian 6.0 or later,

OpenSUSE 11.3 or later,

Fedora 13 Desktop or later

動作に必要なLinuxのライブラリについて（詳細はxojo.comのドキュメントを参照）

(https://documentation.xojo.com/resources/system_requirements_for_current_release.html)

- glib 2.0
- glib 2.64.6 (ARM 64-bit)
- libstdc++.so.6.0.13
- libunwind8
- GTK+ 3 (3.4.1 minimum)
- GTK 3.24.20 (desktop apps on ARM 64-bit)
- libwebkit2gtk - used by [DesktopHTMLViewer](#) and thus the Documentation window and Messages panel
- libgstreamer-1 - used by [DesktopMoviePlayer](#)
- libsoup 3 - used by [URLConnection](#)
- libiodbc - used by [ODBCDatabase](#) - If you're running Raspberry Pi (Bookworm) or later, see the [Pi Notes](#).
- Pango - used by [PDFDocument](#)

0,sshfs Mountについて

sshfs MountはmacOS / Linux用のソフトウェアです。

「1つの事をちゃんとやる」を目標にsshfsのラッパーとして、
「コマンドラインの生成」だけに特化した機能を持っています。

1, リモートサーバにあるディレクトリをローカルにマウントするためのコマンド行を生成します。

2, 基本機能

- ・生成したコマンド行をクリップボードにコピーする。
- ・コマンド行の編集を行う事が出来ます。

3, 付帯機能

- ・コマンド行をShell Scriptとして保存し、実行権限を付与する。
- ・コマンド行を直接Shellへ投げて、ボリュームをマウントする。
- ・'alias'として登録するために、コマンド行の先頭に付加する。
- ・インストールされているターミナルアプリを自動起動する。

4, 英語表記にも対応しています

- ・AIを利用した翻訳を行い、英語リソースを持っていますので、英語環境でも利用出来ます。

sshfs Mountはコマンドを生成するだけで、実際のマウントを行うにはmacFUSEとsshfsがインストールされている必要があります。

<https://macfuse.github.io/>

本説明書の内容がアプリケーションの動作と異なる場合は、説明書の内容更新が出来ていない等の状況ですので、ご容赦下さい。動作上の不具合と思われる場合は本書の【ご質問頂く際には】をお読み頂いた上で内容に沿ったご質問を頂きます様、ご協力をお願いいたします。併せて、全ての作業を一人で処理しております関係上、迅速には対応し切れない場合があります事をご理解下さい。

想定される使用方法

- ・サーバマシン等を日常的に管理運用されている方がUNIXの設定ファイルをリモート側では無く、ローカルの普段使っているエディタなどで編集したい
- ・複数のサーバマシンなどに設定ファイルを配布したい
- ・複数サーバの管理の為、ssh接続情報とsshfsの情報を一括で管理したい
- ・Sambaなどを構築する事なく、手軽にファイル共有したい方
(セキュリティやファイル安全性には特に注意して下さい。警告無しに"/rootファイルシステムを削除してしまう事が可能です。)

【運用上の注意】

本アプリケーションはコマンド行を生成するだけの機能を提供します。

sshの通信やマウント機能はsshfs,macFUSEが担っております事をご理解下さい。

sshfsの機能や特性を理解せずに使用すると、サーバ側のファイルに回復不可能な障害が発生する事があります。

どの様に設定するのが最も安全かを良く考えてご利用下さい。

ソースコードについて

本ソフトウェアはXojoの提供する基本機能と独自開発モジュールを使って構築いたしました。

開発者の判断によって、本ソースコードの一部を公開する事があります。その場合でも、他社が権利を持つソースコードは公開されません。ここで言う権利とは、著作権を持つ者や、契約により著作権の譲渡を受けた者等を指し示しますがそれだけに限定いたしません。

本書執筆時点でいくつかのモジュールが他社の権利下にありますので、全ソースコードの公開は出来ません。

使用に際して：

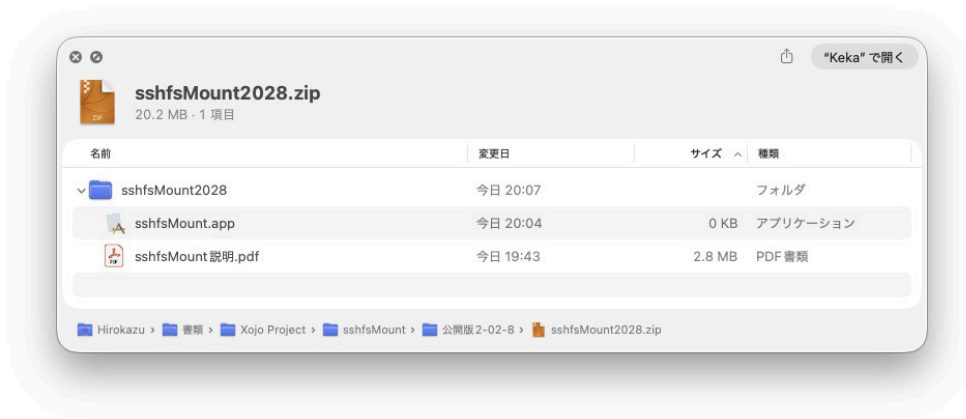
sshfsのオプションは作者が良く使うものだけ厳選して、GUIに盛り込んであります。

その他の詳細なオプションをお使いの場合はコマンドラインを編集してお使い下さい。

作者はiTerm2とPathFinderにて動作を確認しております。

1, インストール

ダウンロードしたZIPファイルを解凍すると、2個のファイルがあります。



- ① sshfs Mount本体
- ② sshMount説明.pdf

①の本体は実行可能なアプリケーションです。
本体は単体で利用可能で、コマンド行の生成に使用する事ができます。
アプリケーションフォルダなどにコピーしてお使い下さい。

②アプリケーションの説明ファイル（本書です）

ダウンロードして頂いたアプリケーションは試用期間が設定されています。
試用期間は最初に起動した日を含めて14日間です。
試用期間後に継続してご利用頂くにはライセンスを購入して頂く必要がございます。

2, ライセンスの登録

ライセンスの登録を行わなくとも、試用期間の間は全ての機能を利用出来ます。
試用期間後に機能を利用するにはライセンス情報ファイルの購入が必要です。

手順

- 1, sshfsMount本体をアプリケーションフォルダなどへコピーします。
- 2, コピーしたsshfsMount.appを起動します。
sshfsMountは起動時にライセンスをチェックします。ここではライセンス情報がインストールされていないのでライセンス確認は出来ておりません。
- 3, sshfsMountメニューから「sshfs Mount(Ver.2.xx.x)について」を選びます。
以下のようなAbout Windowが表示されます。

「無効」と表示されている

このウィンドウを表示したままに
して下さい。
下記の手順4で使います。



4, ライセンス登録

SignファイルとLicenseInfo.xmlファイルをこのウィンドウにドラッグ&ドロップして下さい
「Signファイルをコピーしました」「LicenseInfoファイルをコピーしました」と表示があれば、
インストールは完了です。
閉じるをクリックしてウィンドウを閉じます。
sshfs Mountを終了して下さい。

5, ライセンスの確認

ライセンスがインストールされている事を次の手順で確認します。
sshfsMountを起動します。



ライセンス情報が”有効”になっていればライセンス登録は完了しています。

ライセンス情報が「無 効」になっている場合は

ドラッグ&ドロップしたLicenseInfo.xmlとSignファイルが
以下のフォルダに存在する事を確認して下さい。

ユーザのホームディレクトリ内の

Library/Application Support/org.nanno-net.sshfsMount

このフォルダに

2つのファイルが存在しない場合

→ SignファイルとLicenseinfo.xmlファイルをこのフォルダに直接コピーを行って下さい。

sshfs Mountを起動してライセンス情報の確認を行います。

2つのファイルが存在する場合は以下の原因が考えられます

- ・ LicenseInfo.xmlの
 - ・ ライセンス情報の有効期限切れ
 - ・ ライセンス情報の許諾アプリケーションでは無い
 - ・ ライセンス情報の許諾バージョンが古い

この場合、新しいライセンスが必要になります。

【注意】

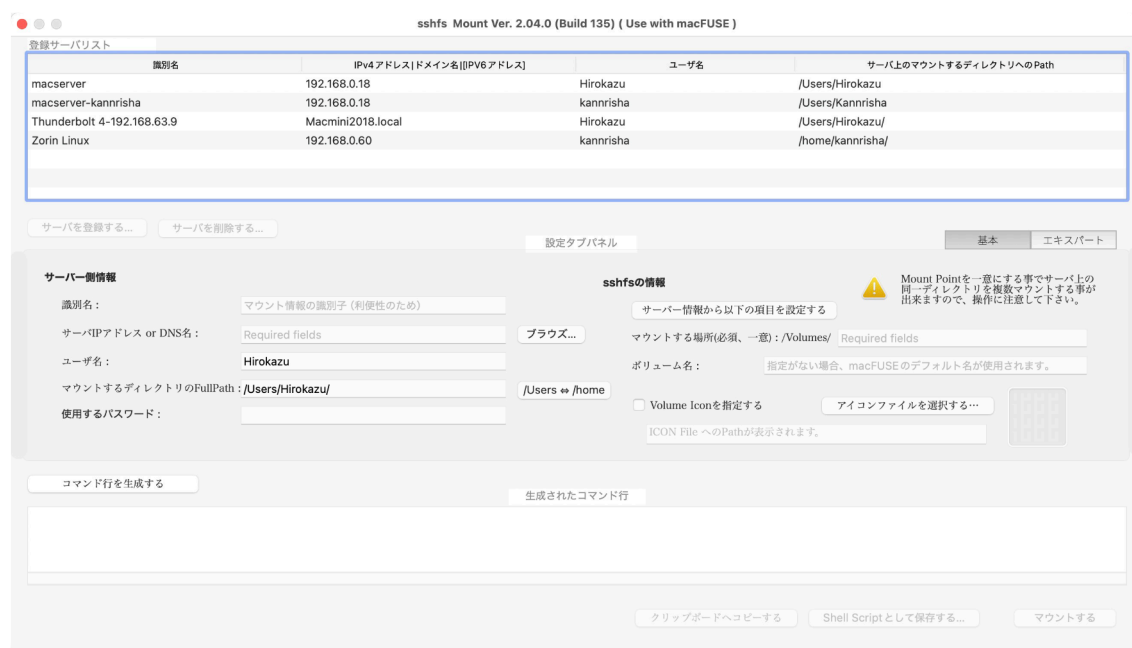
LicenseInfo.xmlはテキストファイルですが、テキストエディタなどで
編集しないで下さい。

署名を検証する際にLicenseInfo.xmlが改変されたと判断すると

ライセンスが無効になります。

3. 機能説明

アプリケーションが起動すると以下のメインウィンドウが表示されます。



ボタンの機能

〔サーバを登録する〕

サーバ側情報に入力された情報を元にリストに登録します。

〔サーバを削除する〕

登録サーバリスト上で選択されたサーバを削除します。

〔コマンド行を生成する〕

サーバ側情報とsshfsの情報が設定されていれば、コマンド行を生成します。
コマンド行を編集するには、コマンド行内をクリックします。

〔クリップボードへコピーする〕

生成された（表示されている）コマンド行全体をクリップボードへコピーします。

〔Shell Scriptとして保存する...〕

コマンド行全体をファイルとして保存して、実行許可ビットをセットします。
Finder上から右クリックで「ターミナルで起動」すれば、他のソフトが必要無いスクリプトファイルになります。

Optionキーを押し下げながらクリックすると、既存ファイルの末尾に作成したスクリプトを追加出来ます。

〔マウントする〕

コマンド行をShellへ渡して、マウントを試みます。

サーバ側のアカウントのパスワードを使用するパスワード欄に入力しておきます。

サーバ側とクライアント側に鍵交換の設定がしてあれば、マウントする事が出来ます。

Optionキーを押し下げながらクリックすると、マウント済みのファイルシステムを一覧からアンマウントする事ができます。

マウント処理に失敗すると、/Volumesディレクトリにマウント時に指定したディレクトリが空の状態に残る事があります。

操作上の障害になる事が有りますので、ターミナルから

```
sudo rmdir /Volumes/<指定したディレクトリ>
```

を実行して削除して下さい。

注意： マウント操作はsshfsで行っています。

- ・パスワード間違いによるリトライは、おこなわれません。
- ・タイムアウト,パスワードエラー等を考慮出来ないなので、マウント操作に失敗する場合があります。
- ・可能であれば、パスワードを入力する事なく使用出来る
より安全な鍵による認証をお使い下さい

マウント時のエラーコードについて

− 2：マウントポイントが無い

− 1：shell呼び出しが失敗した。sshfa,Fuseがインストールされている事を確認して下さい。

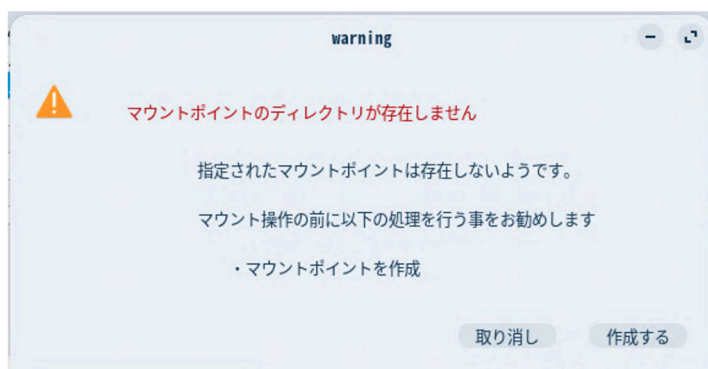
1 2 7：コマンドが見つからない。sshfa,Fuseがインストールされている事を確認して下さい。

2 5 5：リモートサーバへのコネクト失敗。

その他の場合はsshfsやFuseの内部エラーです。manページなどを参照して下さい。

【Linux版補足】

Linuxではマウント時にマウントポイントが自動作成されませんので、"/mnt"ディレクトリにコマンド行で指定した名称のディレクトリが存在しない場合は警告のためのダイアログが表示されます。

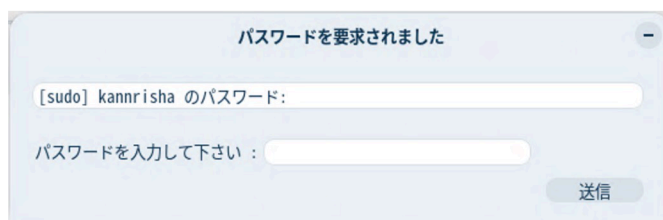


このダイアログで「作成する」をクリックすると、マウントポイントを作成する処理に移行します。
ここではマウントポイントの作成と読み書き権限の設定を行います。
ダイアログに表示された手順に従って操作して下さい。



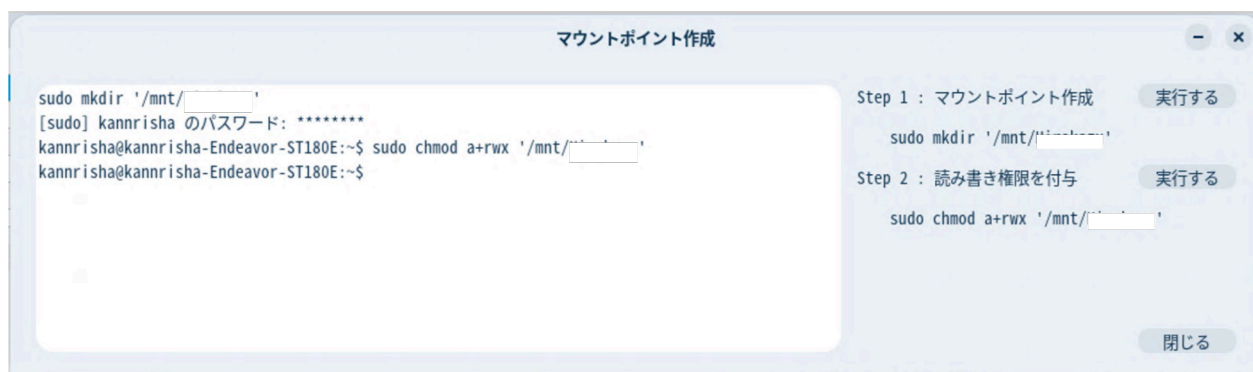
Step 1の「実行する」をクリックすると、管理者権限がない場合はパスワードを入力するダイアログが表示されます。パスワードを入力して送信をクリックして下さい。

ここでのパスワードは
操作しているクライアントマシンの
管理者パスワードです。





Step 2の「実行する」をクリックすると読み書きの権限を変更します。



「閉じる」をクリックするとダイアログを閉じます。

この段階でsshfsコマンドをshellへ送出していますので、リモートのファイルシステムがマウントポイントにマウントされている筈です。
マウント場所は通常は/mntディレクトリです。
エラーが発生している場合はダイアログが表示されます。

基本タブの説明

サーバ側情報とsshfsの情報を設定し、「コマンド行を生成する」をクリックするとウィンドウ下部のフィールドにコマンド行が生成されます。

良く使うサーバは〔サーバに登録する…〕でウィンドウ上部の登録サーバリストに登録する事が出来ます。

リストから削除するには、項目をクリックして選択し、〔サーバを削除する…〕で行います。

サーバ側情報

識別名 (identifier)

識別のためのものです。アプリケーション内で利用していません。

サーバIPアドレス or DNS名

接続先のサーバの名前又はアドレスです。

IPv6アドレスを指定する場合は〔8e00::1〕の様に角括弧で囲んで下さい。

マウントするディレクトリのFullPath

サーバ側にあるディレクトリ名を指定して下さい。

〔/Users ⇔ /home〕

「マウントするディレクトリのFullPath」に入力されているディレクトリが、「/Users」(macOSのサーバ)か「/home」(BSD or Linuxのサーバ)かを切り替えます。

sshfsの情報

〔サーバ側情報から以下の項目を設定する〕ボタン

サーバ側情報からsshfsの情報を設定するには、このボタンをクリックします。

〔マウントする場所〕

クライアント側でサーバ側のディレクトリをマウントする場所を指定します。

〔ボリューム名〕

デスクトップに表示されるボリュームの名称です。

サーバとアカウントが判りやすい名前を設定して下さい。

【補足】

sshfsデフォルトのボリューム名はサーバやアカウントが明確では無いので、指定する事を推奨します。

【Linux補足】

・Linuxのsshfs側の仕様により、ボリューム名は指定できません。

〔ブラウズ〕 ボタン

検索ダイアログが表示されて、クライアントマシンに接続されている有効なネットワークインターフェース上にあるマシンをmDNSを使って探索します。リスト上に表示されているサーバを選択してから〔選択〕 ボタンをクリックすると、ダイアログを閉じて選択した「ネットワーク インターフェース」と「サーバ名」をサーバ側情報へ設定します。



【注意事項と補足】

ここで有効なネットワークインターフェースとは、「イーサネット」、「Wi-Fi」等で機能が有効になっているものを言います。

このダイアログ上で「ネットワーク インターフェース」はクライアントマシンに接続されているネットワーク名を示していますが、サーバ名に同一名称がある場合の識別のために表示しています。

mDNS(macOS上ではbonjourと呼ばれる)はネットワークインターフェースを区別しません。

選択したインターフェースが必ず使用される訳ではありません。通常はシステム設定のネットワークで優先順位が上位にあるインターフェースが利用されます。

【Linux補足】

ブラウズ機能は実装されていません

〔☐Volume ICONを指定する〕

Volume Iconを設定するには、チェックボックスをクリックして、アイコンファイルを選択します。これを選択しないデフォルト状態では、ファイル共有等で使用されるアイコンが使われます。



sshfsMountのアプリケーションバンドル内Resourcesフォルダにボリュームアイコンがありますので、気に入って頂ければご利用下さい。

【Linux補足】

Linux上でのsshfsの仕様により、VolumeICONはサポートされていません。

エキスパートタブの説明

基本タブとエキスパートタブは、タブパネル右上のボタンで切り替えます。
スワイプ操作でも切り替える事が出来ます。



〔☐Default Permissionを使う〕

Default Permissionを使うにはこのチェックボックスをオンにします。
sshfsはこのオプションを指定しない場合はサーバ上のパーミッションを無視します。
デフォルト値はオフです。

〔☐他のユーザにもアクセスを許可する〕

クライアントマシンにログイン可能な【他のユーザ】にもアクセスを許可するには、
このチェックボックスをオンにします。
sshfsはデフォルトではサーバ上のパーミッションを無視するので、これをオンにした場合は
前項のチェックボックスも併せてオンにしてください。

〔☐シンボリックリンクを有効にする〕

シンボリックリンクを有効にするのは、このチェックボックスをオンにしてください。
デフォルトではサーバ上のシンボリックリンクを解決しません。

〔☐コンフィグファイルを指定する〕

ssh接続の際に別のssh設定を利用したい場合は、このオプションで設定ファイルを
指定します。

〔☐通信の際に圧縮する〕

サーバとの通信データを圧縮するには、このチェックボックスをオンにします。
速い回線（EtherNetとか）だと効果は感じられませんが、遅い回線の場合に
有益かと思われます。

〔□自動再接続〕

遅い回線、ノイズのある回線などで接続が途切れる場合とか、サーバ側に無通信時間で切断される場合に、自動で再接続するには、このチェックボックスをオンにしてください。デフォルト値はオンです。

〔□ssh接続にこのポート番号を使う〕

標準の22番ポート以外を利用しているサーバに対して、接続を行うにはこのチェックボックスをオンにして、ポート番号を指定して下さい。

【sshfsmountの独自機能】

〔□コマンド行の先頭に'alias'を追加する〕

コマンド行をエイリアス定義にするにはこのチェックボックスをオンにして、テキストフィールドでコマンド名を指定します。
コマンド行の先頭に「Alias <指定したコマンド名> =」を挿入します。
主に .rc ファイルに追加して、shell起動時にエイリアスを定義するための機能です。

〔□コピー後にターミナルを起動する〕

コピー実行後にターミナルソフトを起動するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションはコマンド行に影響を与えません。
ターミナルソフトが自動起動するため、わざわざ起動する手間無く作業を継続出来ます。起動するターミナルソフトをポップアップで指定出来ます。

ポップアップに表示されるターミナルアプリはアプリケーションフォルダの配下にあるターミナルを探索するようにしています。

検索対象は（作者が知っているターミナルApp）以下の8種のソフトです。

- | | |
|-------------------|-------------|
| • macOS標準付属のターミナル | • Hyper |
| • iTerm2 | • kitty |
| • Warp | • Alacritty |
| • WezTerm | |
| • Ghostty | |

〔サーバを登録する〕ボタン

サーバ側情報の4項目とボリュームアイコンの情報を登録サーバリストに登録します。

- ・ 識別情報

使用者の利便性のために保存しています。任意の文字列を入力して下さい。

- ・ サーバIPアドレス or DNS名

ドット区切りのIPv4アドレス、[]で囲まれたIPv6アドレス又はDNS名を指定します。

- ・ ユーザ名

サーバ側に登録されているアカウント名を指定します。

- ・ マウントするディレクトリのFullPath

サーバ側に有るディレクトリで、クライアントにマウントしたい場所を指定します。

- ・ ボリュームアイコン

マウントする際に特定のアイコンファイルを使用したい場合に指定します。

ボタンをクリックすると確認のためのダイアログが表示されますので、登録サーバリストに追加するには〔追加〕ボタンをクリックして下さい。登録せずにダイアログを閉じるには〔取り消し〕ボタンをクリックして下さい。

ボリュームアイコンを指定しなかった場合は、デフォルトアイコンとして、アプリケーション内蔵のアイコンを登録します。

〔サーバを削除する〕 ボタン

登録サーバリストにあるサーバ情報を削除するには、リスト上からサーバを選択してこのボタンをクリックします。

登録サーバリスト	
識別名	IPv4アドレス ドメイン名 [IPv6アドレス]
TestServer	MacProServer.local

サーバを登録する... サーバを削除する...

ボタンをクリックすると確認のためのダイアログが表示されますので、登録サーバリストから削除するには〔削除〕ボタンをクリックして下さい。削除せずにダイアログを閉じるには〔取り消し〕ボタンをクリックして下さい。

選択したサーバをリストから削除します。

識別名:
 サーバ:
 ユーザ名:
 ディレクトリ Full Path:



コマンド行を生成する

生成されたコマンド行

ここにコマンド行が表示されます。コマンド行は編集、挿入も可能です。
 クリップボードへコピーするには「クリップボードへコピーする」ボタンをクリックして下さい。
 シェルスクリプト ファイルとして保存するには「Shell Scriptとして保存する」ボタンをクリックして下さい。
 直接マウントするには「マウントする」ボタンをクリックして下さい。

クリップボードへコピーする

Shell Scriptとして保存する...

マウントする

〔コマンド行を生成する〕 ボタン

サーバ側情報とsshfsの情報からコマンド行を生成するには、このボタンをクリックして下さい。

下記の3つのボタンを使用するには、このボタンをクリックする事が必要です。

〔クリップボードにコピーする〕 ボタン

コマンド行をクリップボードにコピーするには、このボタンをクリックして下さい。

〔Expeart〕パネルの〔コピー後にTerminalを起動する〕がオンになっている場合は指定したTerminalソフトが起動します。

〔Shell Scriptとして保存する〕 ボタン

コマンド行をShell Scriptファイルとして保存するには、このボタンをクリックして下さい。
 テキストファイルとして保存して、実行許可を付与します。

Optionキーを押したまま、クリックすると、既存のファイルにコマンド行を追加する事が出来ます。既存ファイルの実行許可には影響を与えません

〔マウントする〕 ボタン

本アプリケーションからマウント操作を行うには、このボタンをクリックして下さい。

コマンド行をShellに渡して、直接マウントする事を試みます。

サーバマシンと鍵認証が可能な場合は、即座にマウントされます。

パスワード認証が必要な場合は、使用するパスワード欄にパスワードを入力しておいて下さい。

○ライセンス情報について

試用期間後も利用されたい方はライセンス情報ファイルをご購入頂きます。

ライセンスの期間は3年間かつマイナーアップデート5回分とさせて頂いております。

ライセンスの譲渡等は出来ません。 ライセンスされた個人が所有するmac10台以内には制限なくインストール出来ますが、同時使用は1台までとします。

複数台の同時使用は出来ませんが、作成したShell Script等には一切の制限がありません。

3年を経過すると利用出来なくなります。

例えば、Ver.2.02.xでのライセンス情報は2.07.0までのバージョンアップに対応します。

作品の仕様上、メジャーな機能アップは無いものと考えマイナーアップ5回分とさせて頂いております。

作者は適切な注意をはらって開発を行っておりますが、本ソフトウェアが瑕疵無く動作する事や利用者の目的に適合する事など、一切の保証を致しません。 また、本ソフトウェアを利用した事によって生じる損害などや、利用する事が出来なかった事による損害など、に関して一切の責任を負いません。 ご自身の判断の元、本ソフトウェアを利用する、もしくは利用しない事とします。

本ソフトウェアの不具合の修正、将来のバージョンアップ等の保証も一切致しません。

現状、あるがままの状態で提供されるものとし、そのままお使い頂く事とします。

開発者である作者は著作権を留保します。

本ソフトウェアの開発者、配布者およびそれらの従業員、関係者は本ソフトウェアに関する責任を一切負いません。

本説明書の内容およびアプリケーションの仕様は予告なく変更される事があります。

作者への連絡先：

authors.kiddish2t@icloud.com

ご連絡の際には登録情報に使用したメールアドレスからの連絡のみとさせて頂いております。

ライセンスの購入方法： ベクターシェアレジでの購入

登録情報にメールアドレスが必要なため、メールアドレス必須です。

【ご質問頂く際には】

- ・具体的な情報の提供をお願いします。

どの様な操作を行った結果、どうなったか。どの様な動作を期待しているか。

- ・動作環境

アプリケーションのAboutウィンドウのスクリーンショット

登録時のメールアドレス

sshfsとmacFUSEのバージョン

macOSのバージョンとビルド番号

- ・その他有益と思われる情報やスクリーンショット等

本アプリケーションが最新でない場合は、最新バージョンでの動作もご確認下さい。

本アプリケーションの利用しているmacOSのCLIコマンド

- ・ sshfs (macFUSE)
- ・ networksetup
- ・ ifconfig
- ・ dns-sd

本アプリケーションからshell経由でこれらのコマンドを呼び出しております。

xojoだけでは実現出来なかった機能の実装に利用させて頂いております。

本アプリケーションはこれらのコマンドの現状の動作に基づいて構築されております。

将来のmacOSやコマンドのアップデートで誤った動作を引き起こす可能性があります事をご理解下さい。

謝辞

xojo

素晴らしい開発環境を作り上げ、改善を継続しておられる事に敬意を表します。

Nanno-Netユーザグループ

実務で得られない有意義な体験を得られた事は言葉では表現出来ないほどです。

Internet界隈の有志の皆様

沢山のコードを公開しておられる方々には感謝いたします。直接の回答では無くとも、多くのヒントを頂きました。

kcg

この頃に基礎をしっかり養ったおかげです。感謝！

○個人情報について

当方では、個人情報を恒久的不変な複数の情報により、個人を特定出来る情報を個人情報と定め、これを記録、保存、蓄積などを行っておりません。

登録時に提供いただけるメールアドレスは、登録情報を一意にするための付加情報との位置づけであります。